

平成26年1月20日  
国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所

## 大規模土砂災害に備え、初めてのダム管理者と連携した訓練 ～ 国・県・市町等が連携して、 越美山系大規模土砂災害合同防災訓練を実施 ～

### 1. 内 容

昨年10月の伊豆大島の土砂災害に見られるように土砂災害が頻発しています。越美山系砂防事務所管内でも大規模な土砂災害が起きるかもしれません。それに備えて、「大規模土砂災害対応に関する訓練」（学習型の訓練）を実施しますのでお知らせします。

昨年度、国土交通省・岐阜県・本巣市・揖斐川町の連携を図るため「大規模土砂災害における地域連携マニュアル」を作成しました。地域連携マニュアルを公表後、初の合同防災訓練であり、徳山ダム及び中部電力が初めて参加します。

今回は、マスコミ及び関係機関の方（庁舎管理上、事前登録とします）のみ見学可能です。

マニュアルは、事務所HP（↓下記URL）より閲覧することができます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/etsumi/archive/saigai/bousai/manual.pdf>

### 2. 開催日時等（別添資料参照）

開催日：平成26年1月25日（土） 10時00分～15時00分（予定）

（大雨警報（土砂災害）が発令された場合、訓練を中止する場合があります。）

開催場所：揖斐川町役場3階 防災対策室

参加機関：

国土交通省（中部地方整備局、越美山系砂防事務所、木曾川上流河川事務所）、  
岐阜県（防災課、県土整備部、岐阜振興局、西濃振興局、岐阜土木事務所、揖斐土木事務所）、  
本巣市、揖斐川町、揖斐建設業協会、砂防ボランティア  
独立行政法人水資源機構徳山ダム管理所、中部電力株式会社西平土木管理所  
（合計 70名程度）

### 3. 取 材

当日は、入口にて受付をお願いします。（9時30分より）

事前のお問い合わせは、1月23日（木）までの平日（8時30分～17時）にお願いします。

### 4. 解禁指定

なし

### 5. 配布先（順不同）

岐阜県政記者クラブ、中日新聞揖斐川通信部・北方通信部、岐阜新聞揖斐支局・本巣支局、建通新聞

（問い合わせ先）

越美山系砂防事務所	副所長	大塚康司	TEL 0585-22-2161
	調査課長	白木久也	FAX 0585-22-2174
当日の連絡先：	携帯電話	090-8676-1543	

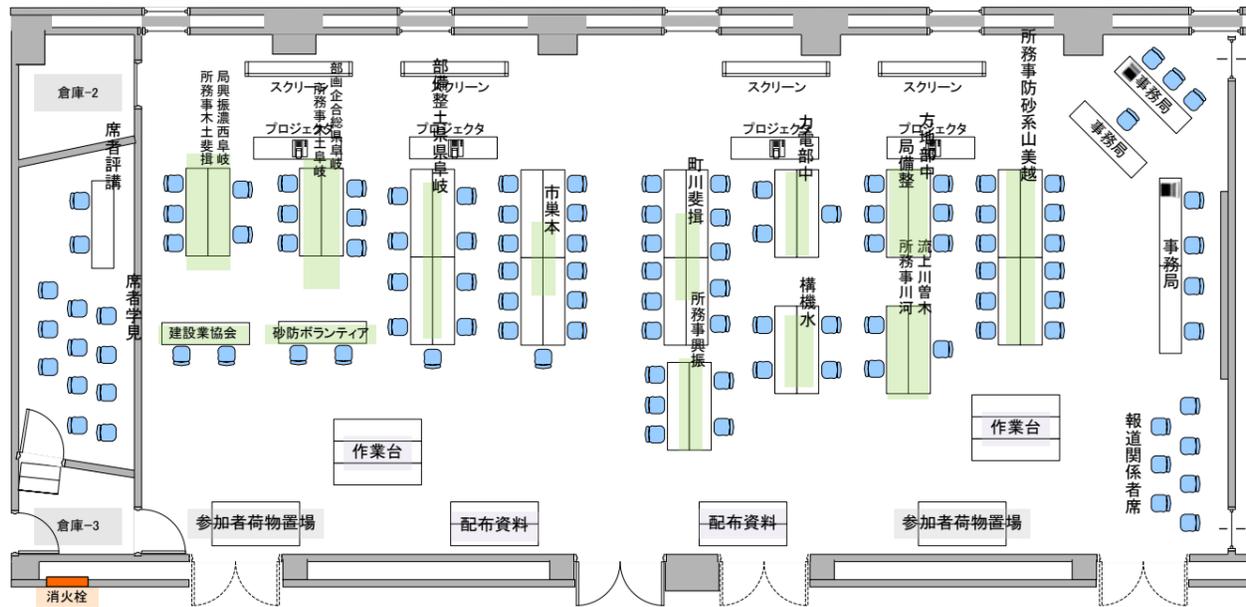


昨年度の合同防災訓練の実施状況

## ■訓練会場レイアウト（揖斐川町役場 3階 防災対策室）

### ■参加機関・人数

参加者 81 名、見学者〇名、事務局 14 名の合計 95 名（暫定）



 訓練実施中はこのエリアに入らないようお願いします（床に赤テープで表示しています）

区分	機関名		人数
参加者	国土交通省	中部地方整備局	6名
		越美山系砂防事務所・揖斐川砂防出張所	12名
		木曾川上流河川事務所・横山ダム管理支所	3名
	岐阜県	県土整備部 道路維持課, 河川課, 砂防課	9名
		総合企画部 市町村課 岐阜地域調査室	1名
		西濃振興局 揖斐事務所	1名
		岐阜土木事務所 揖斐土木事務所	5名 4名
	市町村	揖斐川町	16名
		本巣市	13名
		中部電力(株) 西平ダム管理所	3名
	(独)水資源機構 徳山ダム管理所	4名	
	砂防ボランティア	2名	
	揖斐建設業協会	2名	
	参加者計	81名	
見学者	調整中	〇名	
事務局		14名	
	合計	95名	

平成 26 年 1 月 17 日時点

## 平成 25 年度 越美山系大規模土砂災害合同防災訓練 概要（予定）

### ■訓練の目的

過去 2 年に揖斐川町、本巣市で実施した大規模土砂災害合同防災訓練で抽出された課題に対して、各々の機関のとるべき具体的かつ詳細の対応を確認し、かつ、他機関の対応についての共通認識の形成を図る必要がある。

本年度の訓練は、地震を誘因とする大規模土砂災害（天然ダム、地すべり）に対し、国土交通省及び岐阜県、市町等の各防災担当者の災害対応能力の向上、及びダム管理者との連携対応の確認に資することを目的とする

### ■訓練のポイント

- ・土砂災害防止法の一部改正に基づく、各機関の対応の確認
- ・土砂災害警戒情報に基づく避難対応の確認
- ・情報伝達・共有ルールの検証
- ・災害対策基本法改正に基づく、国の自治体支援対応の確認
- ・天然ダムの決壊に備えたダム管理者との連携

### ■大規模土砂災害とは

地震・豪雨・火山噴火等による土砂災害であって、大規模な土石流、地すべり等、天然ダム（河道閉塞）のように現象が進行性のもの、同時多発的に発生する土砂災害、火山噴火による火砕流・溶岩流・火山泥流等の大規模土砂流出やそれに伴い発生する大規模な天然ダムなど、対応に高度な技術を要するため通常の土砂災害に対する体制では限界があり、社会的な影響が甚大又は被害が広範囲に及ぶおそれがあるものなど国の役割が重要なものをいう。

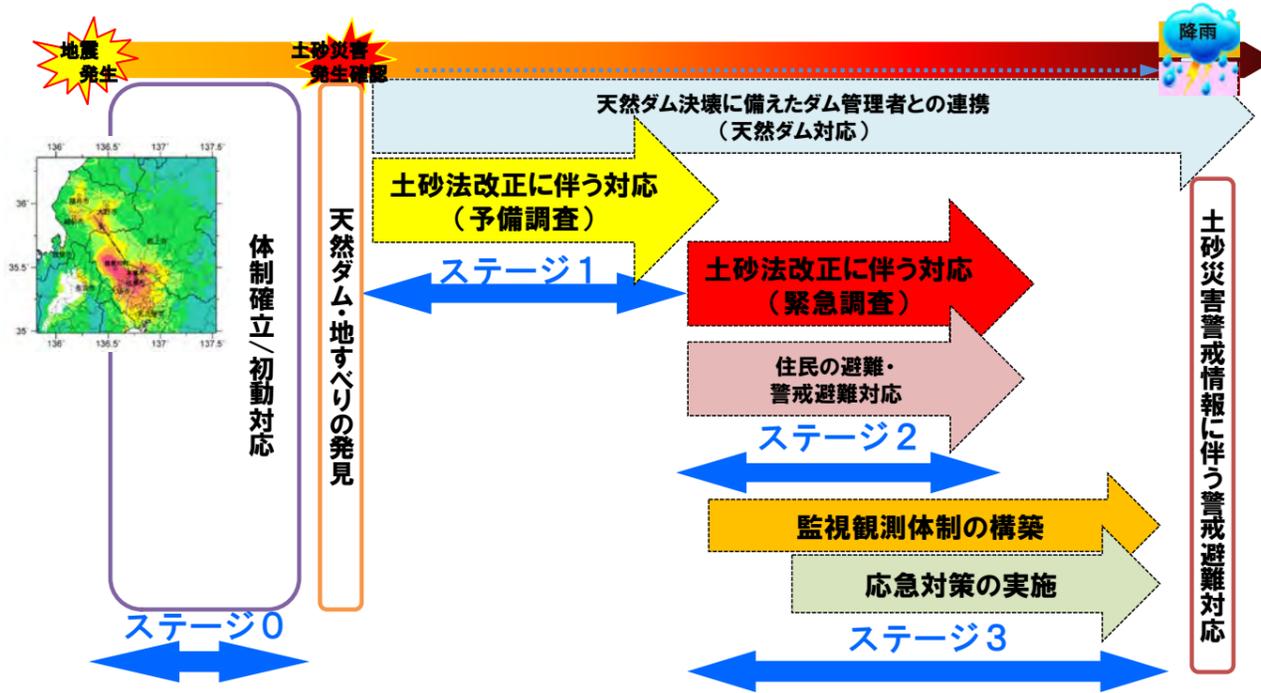
大規模土砂災害危機管理計画（国土交通省砂防部；H20.3.4）より

### ■スケジュール

時間	実施項目
9:45～	参加者集合
10:00～10:10	開会・開会挨拶
10:10～10:20	訓練の進め方の確認
10:20～14:30	学習型防災訓練(途中昼休憩)
14:30～14:45	参加者による振り返り、意見交換 (アンケート記入)
14:45～15:00	講評
15:00	閉会

## ■想定災害

平成 25 年 10 月 28 日に濃尾断層帯を震源とする地震が発生し、これに伴い、揖斐川町内の高知川において大規模土砂災害（天然ダム）が、本巢市内で大規模土砂災害（地すべり）が発生する。



## ■訓練方法（学習型防災訓練）

### 基本的な進行

「進行者」と「訓練参加者」にわかれ、必要に応じて状況付与を行った上で進行者が対応について質問し、これに訓練参加者が回答する形式で進行します。

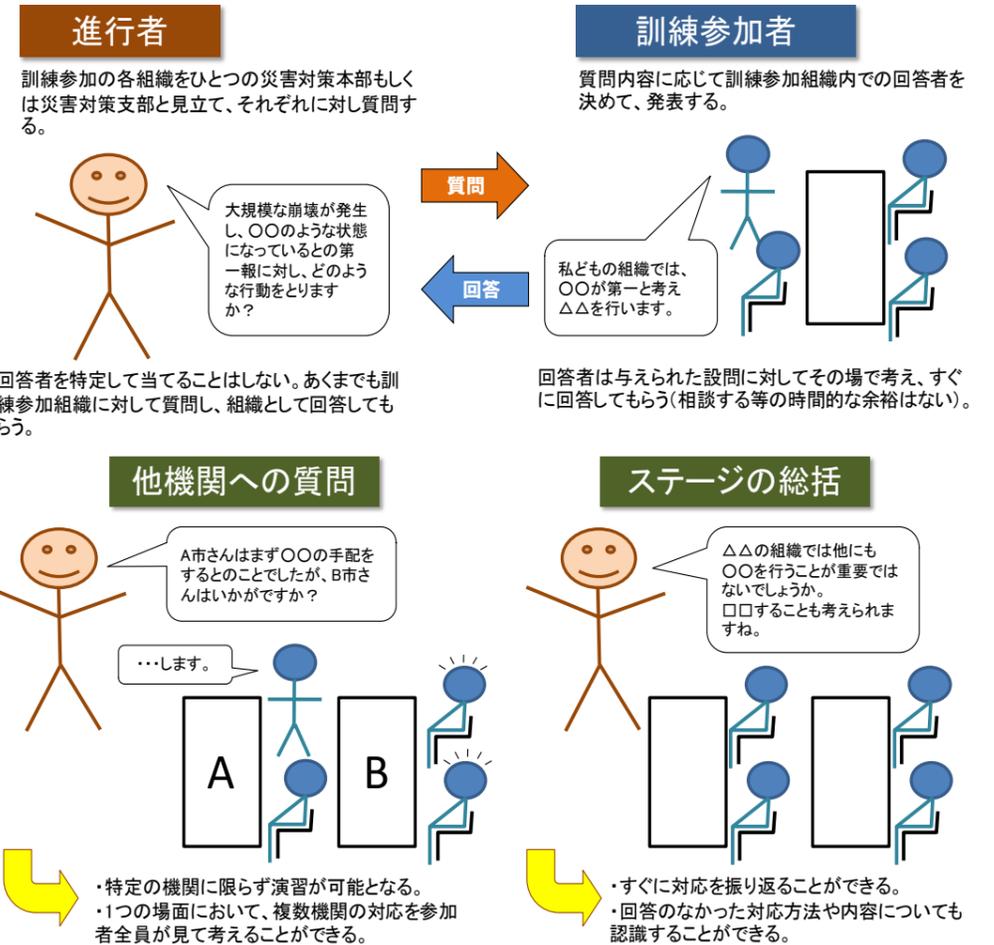
このように逐次対応する形で行うので、実時刻に基づいた進行とはなりません。

### 進行者の役割

進行者は、場面に応じて他機関への質問や、各ステージの最後に内容の総括を行います。

### 振り返り

たとえ回答が適さなくても、すぐに振り返ることができる訓練です。



## ステージの設定と各ステージの狙い

<b>0 地震発生に伴う初動対応ステージ（地震の発生～初動対応）</b> 状況：震度6強の地震が発生。 狙い：地震後の体制確立と被災状況の把握、土砂災害警戒情報の基準切り下げの検討等の初動対応を速やかに行えること
<b>I 大規模土砂災害に対する初動対応ステージ（予備調査～緊急調査実施判断）</b> 状況：天然ダム、地すべりの発見後、予備調査を行い緊急調査の実施判断に必要な情報を収集する段階。 狙い：①必要な調査と情報伝達が漏れなく行え、天然ダムの緊急調査の実施判断につなげられること。 ②大規模土砂災害発生の情報伝達を、各関係機関間で適切に行え、揖斐川本川のダム操作に関する連携体制の構築など、災害発生に伴う初動対応が行えること
<b>II 大規模土砂災害に対する緊急調査対応ステージ（緊急調査～土砂災害緊急情報通知～警戒避難）</b> 状況：緊急調査着手後、ヘリや地上による調査の実施、土砂災害緊急情報（天然ダム：時期、範囲）（地すべり：影響範囲、観測結果）の関係機関への通知、市町による警戒避難対応が完了するまでの段階 狙い：必要な調査、検討が漏れなく行え、土砂災害緊急情報が各組織に確実に伝達され、それに基づく孤立集落対応（天然ダムのみ）および住民避難（天然ダム・地すべり）が適切に行えること
<b>III 監視・観測、応急対策ステージ</b> 状況：天然ダム及び地すべりの継続的な監視・観測および応急対策を現地で実施する段階 狙い：①組織間の連携を保ちながら、的確な監視・観測体制の構築や応急対策を進めること ②緊急調査実施機関である国からダム管理者への情報提供が適切に行えること（天然ダム対応）